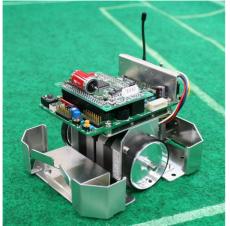
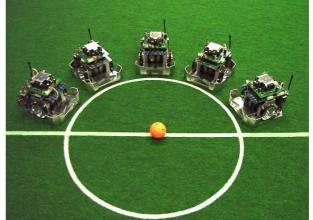




ロボットはテクノロジーの "凝縮素材"!

エレクトロニクス・メカトロニクス・ビジョン・人工知能・情報通信&協調性の学習 応用サンプルソフトウェア、詳細な技術解説付ハードウェアマニュアル付属





ロボット本体

ロボットチーム

■特徴

- ・ロボカップ小型リーグ(F-180)の開発に利用可能な分散協調型移動ロボット
- ・サーバーパソコンからの連続移動指令データ(ID、位置、速度)で正確、自在に行動
- ・日立製 H8/3048F-ONE「HD64F3048」搭載。トレースロボットF0166aと共通のCPU基板を採用
- ・サーキットデザイン製1.2GHz特定小電力無線ユニット標準搭載(オプション対応可能)
- ・多摩川精機製2相ステッピングモータによる左右独立駆動で最速2m/秒を実現
- ・512KbyteRAMで大容量プログラム対応と書込回数制限の不安解消
- ・キックデバイス用に小型DCモータON/OFFドライブ回路2CH実装
- ・光測距センサー(オプション)付加などで自立型マウスロボットにも転用可能

■ソフトウェア構成

- ROMプログラム:データ転送プログラム
- RAMプログラム:無線通信サンプルプログラム、ハードウェアチェックプログラム
- ・プログラム言語 : アセンブラ&C

:

■開発環境(別途、ご用意下さい)

- ・パソコン : DOS/V (OS:Microsoft Windows XP/2000/98など)
- ・Cコンパイラ : PS008CAS5-MWR (<株>日立超LSIシステムズ) 推奨

■製品寸法/重量

:全長145mm×幅120mm×高さ130mm/945g

■税込販売価格

¥180,000.+税

■電気仕様

CPU CLOCK FLASH ROM RAM(基板実装) WIRELESS MODEM	: HD64F3048 (H8/3048F-ONE) : 16MHZ : 128kbyte : S-RAM (4Mbit 16ビット/ドス幅) : 9600bps	COM.I/F BACKUP SOUND MOTOR Dr	: MAX232A(RS232C) : LITHIUM BATTERY(CR2032/3V) : QMB-111(or TMB-05) : SLA7032M	

ロボカップ&小型リーグの概要

Oロボカップとは?

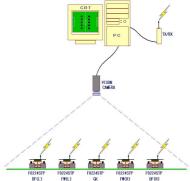
ロボカップは「西暦2050年までにサッカーの世界チャンピオンチームに勝てる自立型のロボットチームを作る」という事が夢の目標です。しかし、単に「人間と同じようにサッカーが出来るロボット」を開発する事だけが目的ではなく、その過程で派生する人工知能やロボット工学を活用して次世代の産業の基盤となる様な研究の推進や、様々な分野への基盤技術の波及を目的とするランドマークプロジェクトです。

〇小型ロボットリーグ(F-180 規格)とは?

卓球台とほぼ同じ大きさのフィールドで、直径180mm以内に入る小さなロボットが5台以内でチームを組み、規定 されたオレンジ色のゴルフボールを使って対戦する競技です。ロボットのサイズがルールに合えば、どんな形状をして いても参加出来ます。(注意:ルール変更の場合あり、ロボカップ公式HPご参照下さい)

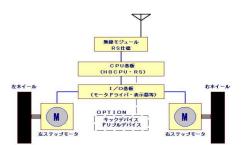
グローバルビジョンシステム

ロボット構成ブロック図



小型リーグは左図の様なグローバルビジョン システムにより、上部3mに設置されるカメラ 画像データをサーバーパソコン側が画像処理 で自チームと相手チームロボットの重心やベ クトルを検出、無線通信システムでロボットに 移動制御指令データを伝送します。

したがって、ロボット工学の他にビジョンシス テムと無線通信技術を研究することにもなり ます。





※写真は開発中イメージです。改良のため予告無く仕様を変更する場合があります。

※「サッカーロボ」は㈱イーケージャパンの登録商標です。他の会社及び製品の名称は、それぞれの所有する登録商標または商標です。 ※改良のため予告なく仕様を変更する場合があります。 注文額2万円(税抜)未満の場合は送料が必要です。